海外連携（スコットランド）について

資料６

スコットランド教育の概要

・１９９９年に教育に関する権限がイングランドの中央政府から移譲される。

→スコットランドの教育制度はイングランドなどとは異なっており、文科省等で示される「英国の教育」が当てはまらないケースも多い

・２０１０年から独自の教育カリキュラム（Curriculum for Excellence）を定める。

・ＯＥＣＤが目指す未来の教育像を意識し、認知能力と非認知能力が組み合わさった力を全ての教科において伸ばしていくことを目指しているため、群馬県がこれから取組を進めていく上で、非常に参考になる。

スコットランド教育の概要

・教育スタイルは、フィンランドやエストニアなどの北欧諸国と類似しているが、新しいカリキュラムに移行してから十数年とまだ日が浅い。

・他の北欧諸国と比べて、新しいカリキュラムに沿った教育を進めていくための教員研修に力を入れていたり、旧態依然の教育スタイルをどう変えていったのか、また、その中で具体的にどんな課題が生じてどう対応してきたのかなども把握しやすい。

・それぞれの学校が置かれている状況に応じた実践を行えるように、学校長の裁量権が大きい。＝共同研究においても学校との連携が重要。

Curriculum for Excellence　卓越へのカリキュラム

- 2010 年8 月より実施。カリキュラムの特徴は、教科横断と形成的評価を重視し、中央教育行政府は内容を細かく規定せずにその意図を提示するだけで、教員が専門能力を発揮して各学校のニーズに即した内容へ適応させて実践することが求められている。
- 「Curriculum for Excellence」の目的とは、「４つの力（four capacities）」を特定の教科においてではなく、全ての教科において、これらの力の発達を目指している。この「4 つの力」と教科との関係は、日本の学習指導要領において育成を目指している資質・能力の三つの柱と教科の関係に類似していると捉えることができる。

Curriculum for Excellence　卓越へのカリキュラム

（Education Scotland のWebページより）

・スコットランドのカリキュラムである「Curriculum for Excellence」は、子どもや若者が21世紀の生活のために必要とされた知識、スキル、資質を得る手助けとなります。

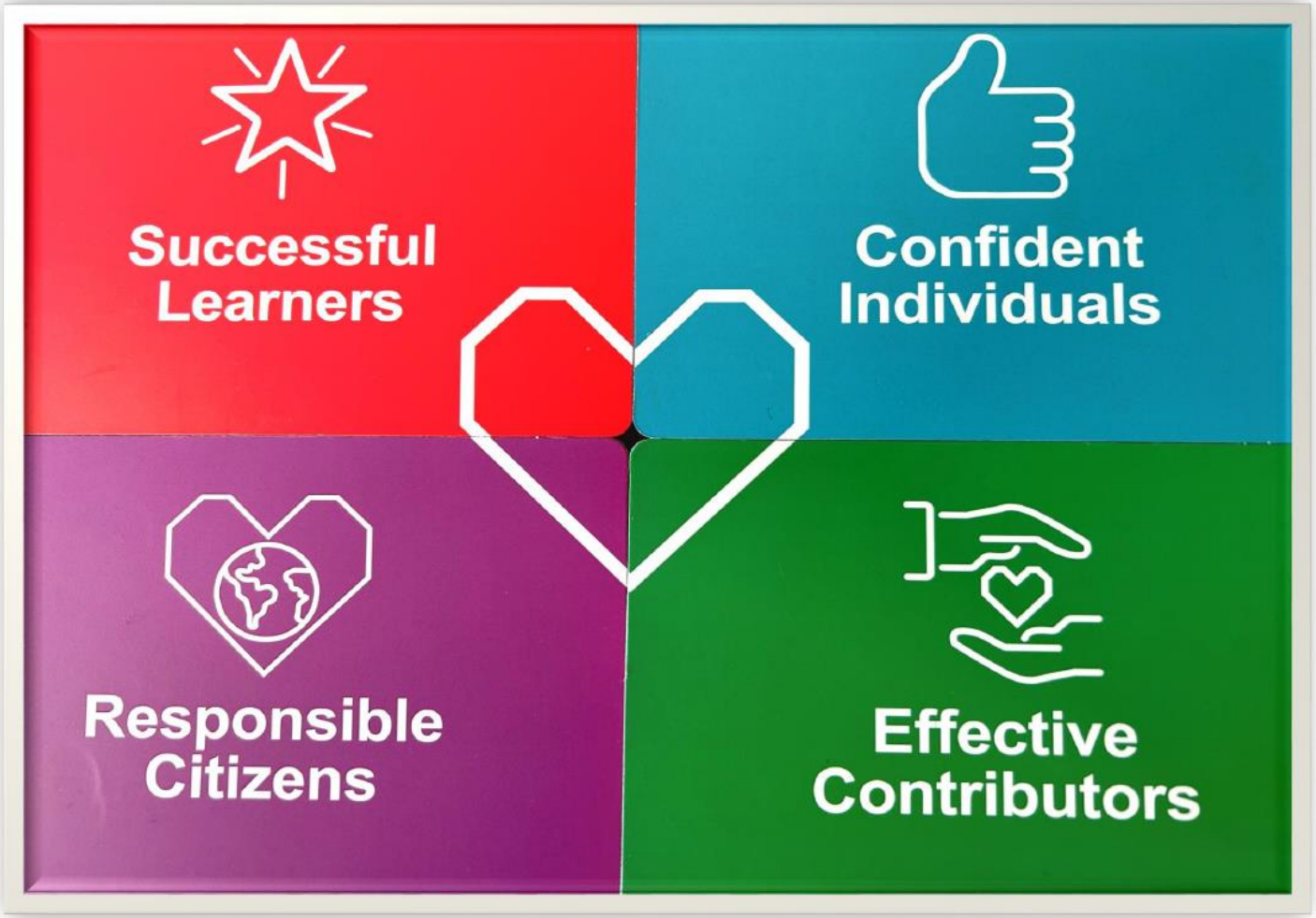
・「Curriculum for Excellence」は、教育の中心に学習者を置きます。そこには、4つの基本的な能力があります。これらの能力は、教育と学習の生涯性を反映し、認めます。そして、子供や若者が次のようになるのを支援することを目指しています…

成功する学習者	**自信を備えた人**
責任ある市民	**効果的な貢献者**

Curriculum for Excellence　卓越へのカリキュラム

成功する学習者

自信を備えた人



責任ある市民

効果的な貢献者

Curriculum for Excellence　卓越へのカリキュラム

Scotland's approach - the four capacities

National Improvement Hub

To enable ALL young people to become

Successful Learners

with:
> enthusiasm and motivation for learning
> determination to reach high standards of achievement
> openness to new thinking and ideas

and able to:
> use literacy, communication and numeracy skills
> use technology for learning
> think creatively and independently
> learn independently and as part of a group
> make reasoned evaluations
> link and apply different kinds of learning in new situations

Confident Individuals

with:
> self respect
> a sense of physical, mental and emotional wellbeing
> secure values and beliefs

and able to:
> relate to others and manage themselves
> pursue a healthy and active lifestyle
> be self aware
> develop and communicate their own beliefs and view of the world
> live as independently as they can
> assess risk and take informed decisions
> achieve success in different areas of activity

Responsible Citizens

with:
> respect for others
> commitment to participate responsibly in political, economic, social and cultural life

and able to:
> develop knowledge and understanding of the world and Scotland's place in it
> understand different beliefs and cultures
> make informed choices and decisions
> evaluate environmental, scientific and technological issues
> develop informed, ethical views of complex issues

Effective Contributors

with:
> an enterprising attitude
> resilience
> self-reliance

and able to:
> communicate in different ways and in different settings
> make informed choices and decisions
> work in partnership and in teams
> take the initiative and lead
> apply critical thinking in new contexts
> create and develop
> solve problems

Curriculum for Excellence　卓越へのカリキュラム

成功する学習者

（以下を備える）
- 学習に対する熱意とやる気
- 高い水準に達成する決意
- 新しい考え方やアイディアを受け入れる

（そして以下のことができる）
- 読み書き、コミュニケーション、数的スキルを使いこなす
- 学習にテクノロジーを活用する
- 創造的かつ自主的に考える
- 自主的に、またグループの一員として学ぶ
- 合理的な評価をする
- 新しい状況において、さまざまな種類の学習をリンクさせ、応用する

自信を備えた人

（以下を備える）
- 自尊心
- 身体的、精神的、感情的な幸福感
- 確かな価値観と信念

（そして以下のことができる）
- 他者と関わり、自己を管理する
- 健康的で活動的なライフスタイルを追求する
- 自己認識する
- 自分の信念や世界観を確立し、それを伝える
- できるだけ自立した生活を送る
- リスクを評価し、十分な情報に基づいた意思決定を行う
- さまざまな活動領域で成功を収める

責任ある市民

（以下を備える）
- 他人を尊重する
- 政治的、経済的、社会的、文化的な生活に責任を持って参加することへのコミットメント

（そして以下のことができる）
- 世界と世界の中のスコットランドの位置付けについての知識と理解を深める
- 異なる信条や文化を理解する
- 情報に基づいた選択と決定をする
- 環境問題、科学技術問題を評価する
- 複雑な問題に対して、十分な情報に基づいた倫理的な見方を身に付ける

効果的な貢献者

（以下を備える）
- 進んで取り組もうとする姿勢
- レジリエンス
- 自立

（そして以下のことができる）
- さまざまな方法、さまざまな場面でコミュニケーションをとる
- 十分な情報に基づいた選択と決断をする
- パートナーシップとチームワークで取り組む
- 率先垂範する
- 批判的思考で新しい文脈に対応する
- 創造、発展させる
- 問題を解決する

スコットランドの教育の目指すもの（National Improvement Framework）

【目標】学習者の卓越性と公平性の達成

【Key Priorities】

① 全ての子どもと若者の人権とニーズを教育の中心に置く
※２０２１年のリビューを踏まえて、インクルージョンに関する権利と必要性から新たに追加された項目。従前は４つのKey Priorities

② 子どもと若者の健康と福祉の改善

③ 子ども・若者の最も有利な立場にある者と最も不利な立場にある者との間の達成格差を埋める

④ 全ての若者のスキル及び持続的で前向きな学卒後の方向性の向上

⑤ 達成度（特に識字能力と計算能力）の向上

【Drivers of Improvement】

① 学校、早期学習と保育のリーダーシップ

② 教員や教育実践者のプロ意識

③ 保護者のinvolvementとengagement

④ カリキュラムと評価

⑤ 学校と保育の改善

⑥ 教育の実施状況に係る情報提供

スコットランドの教育の目指すもの（インクルージョンの観点から）

【原則】通常の学校での全員就学をインクルージョンとして捉え、さまざまなニーズを「付加的な支援のニーズ」（Additional Support Needs）のタームで把握する。
→子どもたちのニーズは増加の一途を辿っているものの、通常学校への就学が原則とされており、また通常学校の中でも通常の学級で学んでいるケースが増えている。

【今回の共同研究との関連から】スコットランドにおいては、すべての子どもたちの学習する権利を通常の教育システムで保障することを目指している（特別学校は残存している）。この学習する権利とは通常の教育へのアクセスを実現するという点だけでなく、達成（AchievementやAttainment）の観点からも検証されており、その中には認知的スキルだけでなく、非認知スキルも含み込まれている。今回の共同研究を通して、スコットランドのある学校だからできる、また群馬のある学校だからできることという「特殊事例」ではなく、すべての子どもたちの包摂と達成（非認知スキルの向上）を可能にする、そうした教育が構想されることを願っています。